

平成 24 年 11 月

旧交を温めるための濁酒  
銀杏と書いて葉と実を読みわける  
マンションになじまず冬支度でふ季語は  
里山の火のないところにけむり茸  
紅葉せず且つ散りもせず冬に入る  
漁火を滲ませてゐる別れかな  
俳人に句を詠ますべく時雨けり  
出不精の遅ればせなる初紅葉  
蒸かし芋手に夜更かしの秋深し  
身に入むや地口をおじんギャグなんて